

Start & Challenge 子育て世代が地域の人と触れ合う場

子育て世代が地域で様々な人と気軽に触れ合える場づくりを、と今年4月に結成した「ハルのキに。」(川田芳昭代表)が定期的に交流活動を行っている。市民公益活動事業補助金スタート補助金を受けて市内2カ所で開催。6月から始まった和泉多摩川地区センターでは、第4木曜日午後2〜5時にリトミックや工作を行うほか、ハロウィンなどのイベントも催す。平日午後の開催は珍しいため、乳幼児や幼稚園児なども参加できると好評で、シニア世代と昔遊びを楽しむ姿も見られる。10月からはクオール薬局狛江店(中和泉1-1-1)でも開催、第2木曜日午前9時45分〜正午が妊娠中から赤ちゃん向け、午後1〜5時は全年齢向けで、出産を控えたママやパパ向けの講座も予定している。不定期で市周辺の他会場でも催している。いずれも出入り自由で、基本的に参加無料。内容はインスタグラム(二次元コード)で確認できる。またサポートメンバーも募集している。問い合わせEメールMharunokini@gmail.com同会。



世代を越えて触れ合い



子どもとの関わり方考える講演会

子どもがのびのびと育つことのできる地域づくりを目指し、講演会「こどもの声を聴くために」(狛江市共催、市教育委員会後援)が2月1日(土)午後1時30分〜4時に西河原公民館で催される。講演会では、昭和大学准教授で、同大病院の院内学級担当として入院中の子どもの学習・心理面のサポートを行いながらホスピタル・クラウンとしても活動する副島賢和さんが、子どもたちとのエピソードを通じ、家庭や地域、教員が子どもの感情や本音に寄り添う関わり方について考える。また、市内の学校による発表や、市内教員などを交えたクロストーク「こどものモヤモヤ・先生のモヤモヤ」も催す。令和5年に結成以来、「子どもの権利」について大人も子どもも共に考える場を作る活動をしている「こまえ・こどもの権利を考える会」(豊田美由紀代表)が市民公益活動事業補助金チャレンジ補助金を受けて開催する。定員は先着150人で参加無料。申し込みは二次元コードから。問い合わせはEメールMkomae.kodomo.kenri@gmail.com同会。



副島さん



PINSを集めて商店街応援 89店参加、2月までラリー実施

市内の商店街を巡ってオリジナルピンバッジ(PINS)を集める「商店街PINSラリー」が人気を集めている。市内にある商店会への認知度を高め、愛着を持ってもらうとともに、回遊を促進することを目的に実施するもの。ラリーを通じて、地域の生活を支えるだけでなく、人々がかかわり合う場所としての役割を担っていることを知ってもらうという。ラリーには市内の15のうち12の商店会に加盟する89の店舗や事業所が参加している。実施期間は11月1日(金)から2月28日(金)。ラリーのルールは①市内の公共施設、参加店舗、駅などに置いてある『商店街ガイドブック』を入手し②参加店で買い物などをして会計時にスタンプを押してもらい③スタンプ2個を集めて各エリアの指定場所でPINS



PINS

を受け取る。スタンプは1回の利用金額が1,000円〜1,999円(税込み)で1個、2,000円以上で2個押印してもらえる。

ガイドブックはA5判、32ページ(表紙とも)で、商店会ごとに地図と加盟店を紹介しているほか、PINSラリーのルール紹介、スタンプページなどを掲載している。

PINSは狛江をモチーフにしたデザインで11月は枝豆で描いた「狛」の字、12月は多摩水道橋、1月は狛江駅の駅舎、2月は狛江のまちの地図に市制施行の1970年の数字をあしらった。サイズは幅約25mm、高さ約25mm。いずれも色違いでそれぞれ3種類、全12種類ある。配布数は各100個で、なくなり次第終了する。

スタンプラリーに合わせてオリジナルトートバッグ「THE ECHO BAGS」を製作した。

バッグは、ECHO(やまびこ)のようにイベントが市内に響くとともに、商店街で買い物をしてまた帰ってきてほしいという思いが込められている。



サイズは幅36cm、高さ37cm、トートバッグ奥行き11cmで素材はコットン100%。価格は500円(税込み)で市役所2階地域活性化課、アイスタジオ(東和泉3-6-4 ☎3489-2433)、木村メガネ(中和泉1-1-1 ☎3480-9367)、セイシン狛江店(東和泉1-30-2 ☎3480-8972)、籠屋秋元商店(駒井町3-34-3 ☎3480-8931)で販売している。問い合わせ ☎3430-1111 市民生活部地域活性化課。

参加商店会

- 【赤エリア】・和泉多摩川商店街振興組合・ひかり商店会・狛江ショッピングセンター商店会・狛江団地商店会
【青エリア】・狛江五小前商店会・御台橋商栄会・狛江中央商店会・狛江セントラル商店街・狛江駅北口商工振興会
【緑エリア】・狛江駅前親栄会・狛江銀座商店会・二の橋通り商店会

狛江セブンが喜びの報告 バレー関東大会で初優勝

茨城県結城市で11月16日(土)・17日(日)に開かれた第40回関東小学生バレーボール大会の混合の部で初優勝した狛江セブンの選手14人と広瀬雅一監督らが12月18日(日)に狛江市役所を訪れ、松原俊雄市長に大会の成果を報告した。



狛江セブンの選手たち

関東大会には1都7県の予選を勝ち抜いた代表16チームが参加、トーナメント形式で行われ、狛江セブンはストレートで勝ち進んで優勝した。

キャプテンの嶋崎碧斗君(緑野小学校6年)は、「この試合が小学生最後の大会なので優勝できて良かった。中学生になって

も、小学生時代の結果が生かせるように頑張りたい」と話した。広瀬監督は「関東大会は3回目。ことしのチームは、身長は余り高くないが、本番に集中力を発揮する強さがこの結果をもたらした」と喜んでた。

松原市長は「今年は、全国大会出場と関東大会優勝の2回も報告を受けることができている。この大会で得た経験を生かして、みんな輝いてください」とエールを贈っていた。

人気の狛江ブランド野菜 駅の即売会に客の列

狛江産の冬野菜の即売会が11月25日(土)と27日(日)の夕方に狛江駅の自由通路で行われた。狛江GAP研究会(小川保会長)



人気の狛江ブランド野菜即売

に所属する17戸の農家が白菜、長ネギ、キャベツ、柿など両日とも32種類670点の野菜と果実を通常より2、3割引で販売した。同研究会のメンバーが栽培している「狛江ブランド野菜」の味を知ってもらうため、令和4年から夏と冬に実施しており、今回で6回目。野菜の高値が続いていることもあり、客の列ができて両日とも30分ほどで完売した。

デフリンピック卓球のPRも 多摩川で「みんなの広場」

東京たまがわロータリークラ

ブが「たまがわニコニコみんなの広場」を12月1日(日)に多摩川自由ひろばで開催した。

会場ではハツカネズミやチャボ、羊など大小様々な動物と触れ合える広場、ポニー乗馬などが設けられ、親子連れでにぎわっ



プレーする青山さん(右)

た。また、今年11月に催される東京2025デフリンピックのPRコーナーが設けられ、世界ろう者大会で卓球日本代表として活躍した青山修さんが競技について紹介した後、希望者と対戦。参加した人は音が聴こえないハンディを抱えてプレーする難しさを体験していた。

「救急車を呼ぶ？」 迷ったときは#7119

冬は風邪やインフルエンザ等の感染症、気温の変化による体調不良等で救急要請が増加。救

急出場が増えると近くで待機する救急車がいなくなり、救急車の到着が遅れ、救える命が救えなくなる可能性が高まる。

狛江消防署では、救急車を呼ぶか迷った場合は「#7119」(東京消防庁救急相談センター)へ電話するよう呼びかけている。同センターでは相談医療チーム(医師・看護師等)が24時間、年中無休で対応し、相談に応じている。ただ、緊急性が高いと思った時は、ためらわずに救急車を呼ぶことも大切と訴えている。

